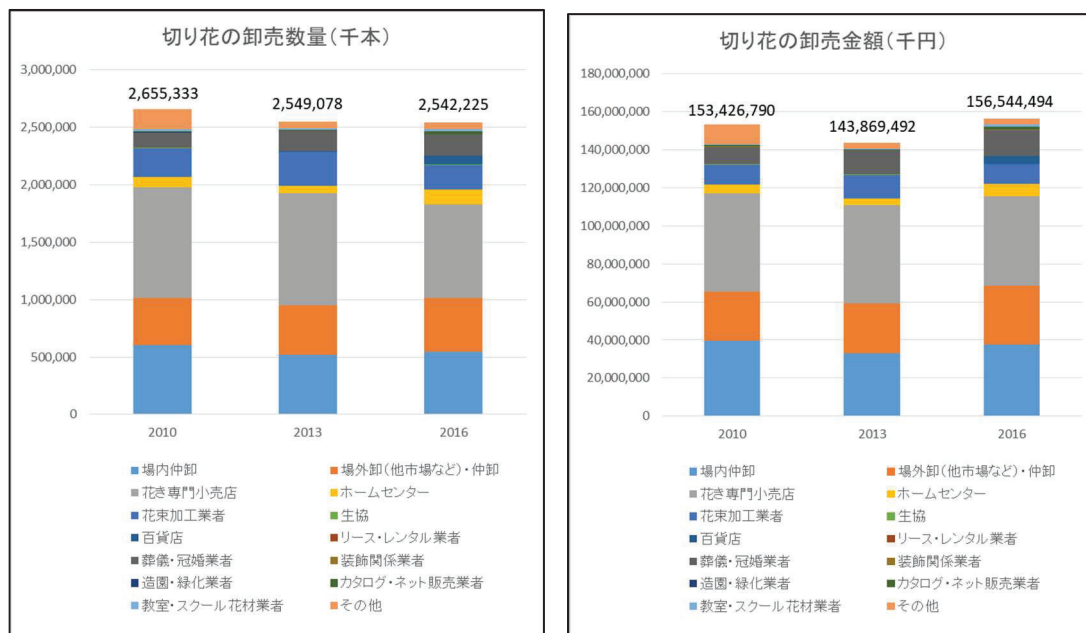


図表21 切り花の取引状況



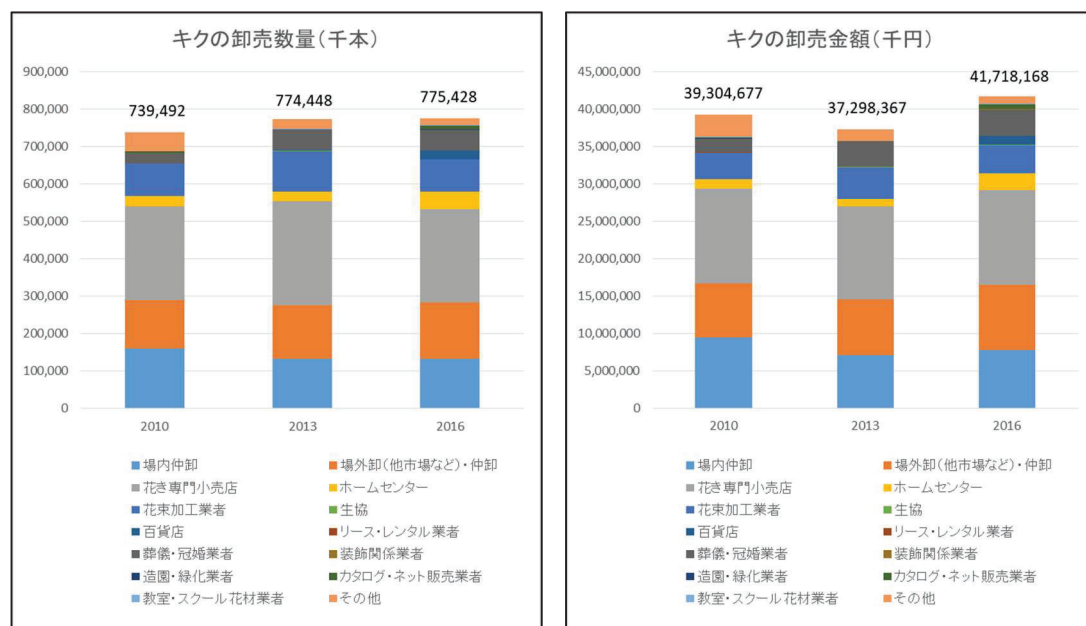
資料:卸売業者及び仲卸業者の取引実態調査

品目別にみると、2010年から2016年の間に、キクの卸売数量は7.3億本から7.8億本へと5%増、卸売金額は393億円から417.2億円へと6%増加した。

また、2016年のキクの卸売数量7.8億本のうち、花き専門小売店は2.5億本で、全体の32%を占めている。一方、卸売金額417.2億円のうち、花き専門小売店は127億円で30%のシェアであった。

その他、2010年から2016年の間に、卸売数量、卸売金額ともに、カタログ・ネット販売業者や教室・スクール花材業者、葬儀・冠婚業者、ホームセンターの伸びが顕著となっている。

図表22 キクの取引状況



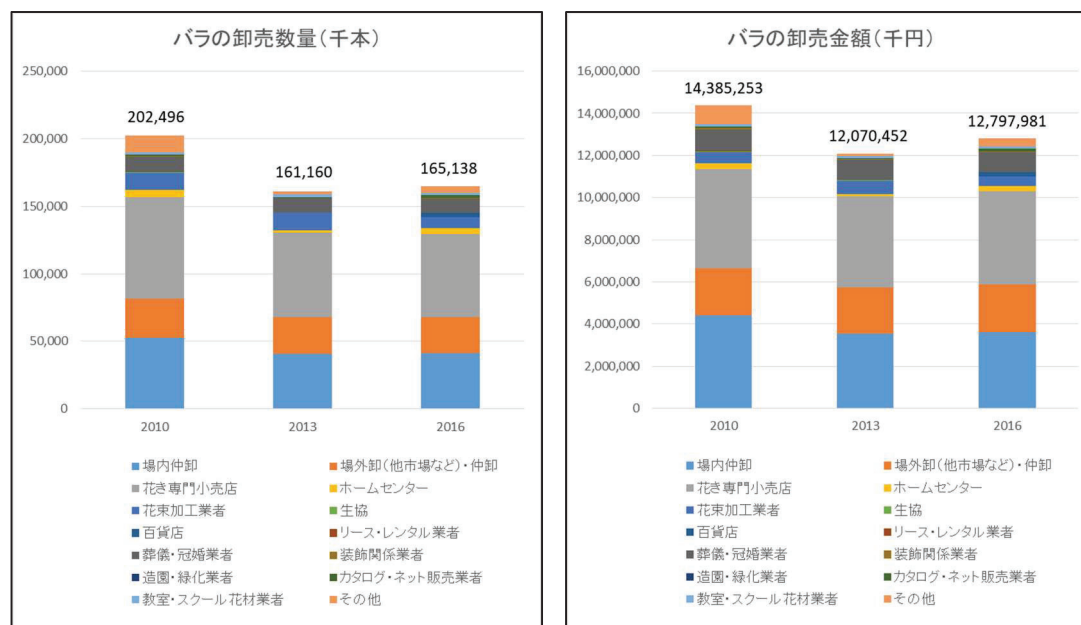
資料:卸売業者及び仲卸業者の取引実態調査

2010年から2016年の間に、バラの卸売数量は2.0億本から1.7億本へと18%減少し、卸売金額も144億円から128億円へと11%減少した。

また、2016年のバラの卸売数量1.7億本のうち、花き専門小売店は0.8億本で、全体の37%を占めている。卸売金額も128億円のうち、花き専門小売店は44.4億円で、35%のシェアであった。

その他、2010年から2016年の間、卸売数量、卸売金額ともに、カタログ・ネット販売業者の取扱いの伸びが顕著となっている。

図表23 バラの取引状況



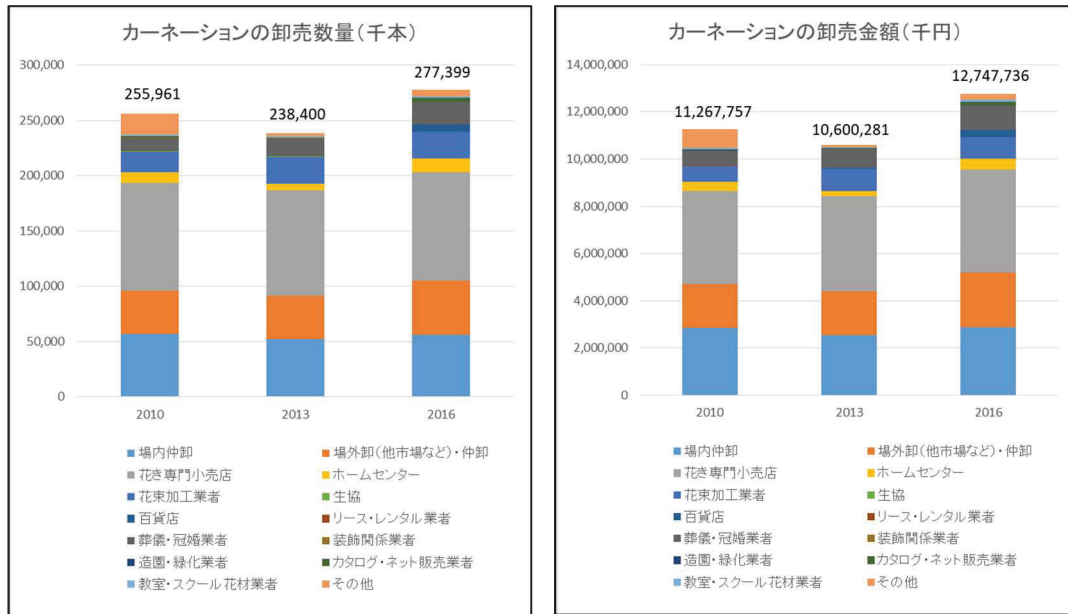
資料:卸売業者及び仲卸業者の取引実態調査

2010年から2016年の間に、カーネーションの卸売数量は2.6億本から2.8億本へと8%増加し、卸売金額も113億円から127億円へと13%増加した。

また、カーネーションの卸売数量2.8億本のうち、花き専門小売店は約0.98億本で、全体の35%を占めている。卸売金額も127億円のうち、花き専門小売店は98億円と全体の34%のシェアであった。

その他、2010年から2016年の間に、卸売数量、卸売金額ともに、カタログ・ネット販売業者の取扱の伸びが顕著となっている。

図表24 カーネーションの取引状況

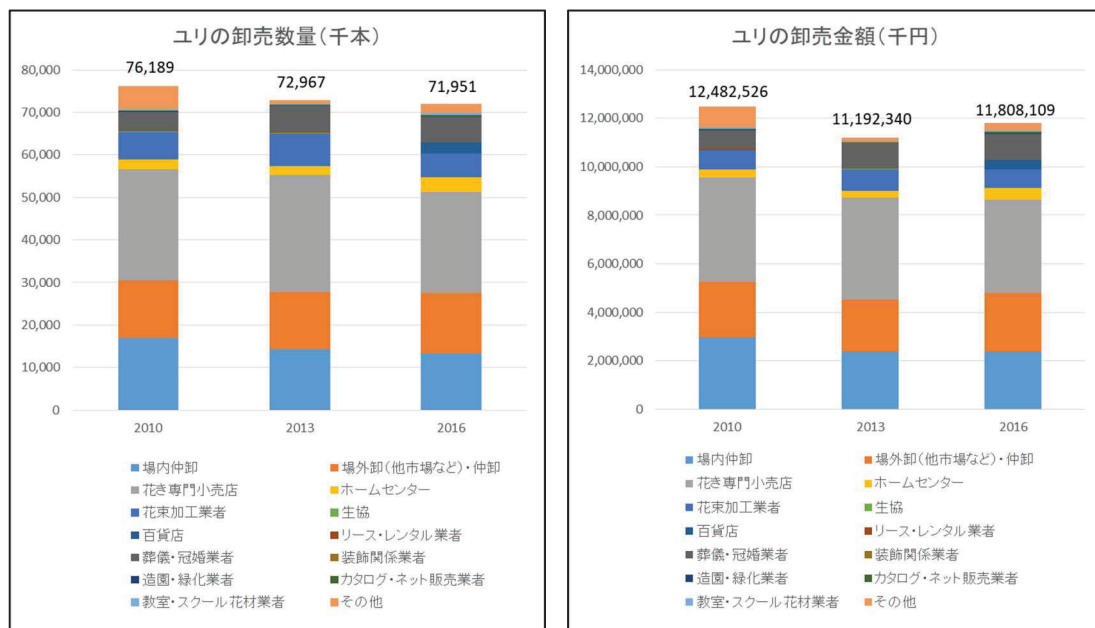


2010年から2016年の間に、ユリの卸売数量は0.76億本から0.72億本へと6%減少し、卸売金額も125億円から118億円へと5%減少した。

また、ユリの卸売数量0.72億本のうち、花き専門小売店は0.24億本と全体の33%を占めている。卸売金額も118億円のうち、花き専門小売店は38億円と32%のシェアであった。

その他、2010年から2016年の間、卸売数量、卸売金額ともに、カタログ・ネット販売業者やホームセンター、教室・スクール花材業者の取扱の伸びが顕著となっている。

図表25 ユリの取引状況

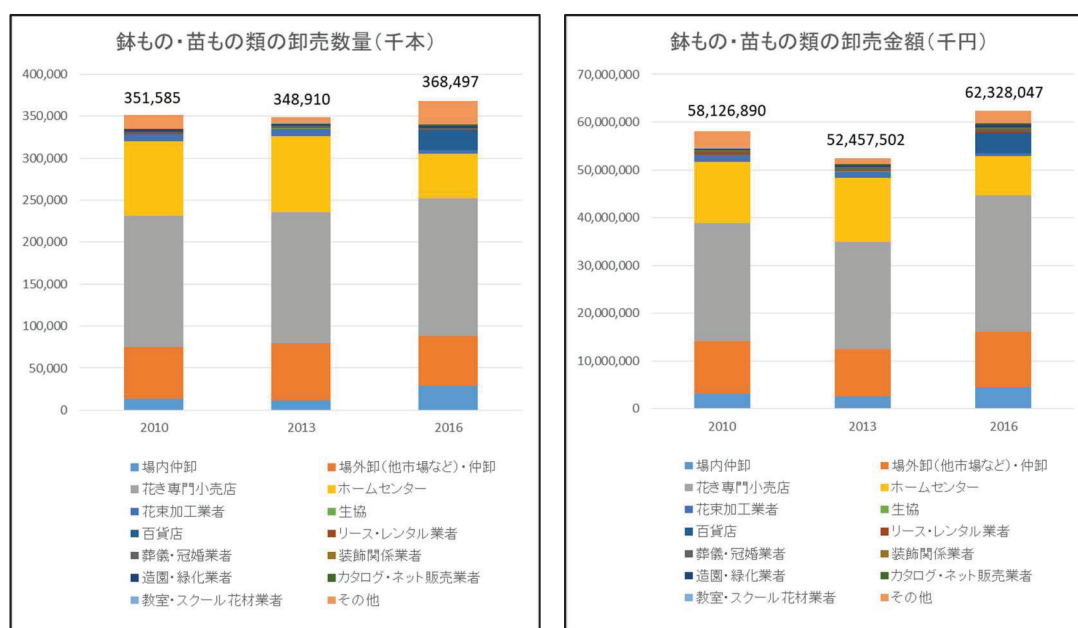


2010年から2016年の間に、鉢もの・苗ものの類の卸売数量は3.5億本から3.7億本へと5%増加し、卸売金額も581億円から623億円へと7%増加した。

また、鉢もの・苗ものの類の卸売数量3.7億本のうち、花き専門小売店は1.6億本と全体の44%を占めている。卸売金額も623億円のうち、花き専門小売店が285億円と46%のシェアであった。

その他、2010年から2016年の間、卸売数量がカタログ・ネット販売業者で伸びているのに対し、卸売金額は、カタログ・ネット販売業者や造園・緑化業者、葬儀・冠婚業者の取扱の伸びが顕著となっている。

図表26 鉢もの・苗ものの類の取引状況



資料:卸売業者及び仲卸業者の取引実態調査

(4) 消費

総務省の家計調査年報によると、1世帯当たりの切り花の年間支出金額は、2002年が10,705円だったのに対して、2019年では7,798円まで約27%減少している。100世帯当たりの切り花の購入頻度も、2002年が985回だったのに対して、2019年では818回と約17%減少している。

同じく家計調査年報で、1世帯当たりの切り花の年間支出金額を年間収入5分位階級別に比較すると、2002年時点では年収829万円以上世帯が14,163円、年収280万円未満世帯が9,450円と、年間4,713円もの差があったが、2019年には年収829万円以上世帯が8,133円、年収280万円未満世帯が8,582円と、低年収世帯の年間支出額が高年収世帯を上回っており、切り花のコモディティ化が進行していることが伺える。